

投稿ならびに執筆規定

(改訂日：2025 年 4 月 23 日)

1. 本誌への投稿の著者は、日本リハビリテーション連携科学学会会員に限る。
2. 投稿論文の内容は、リハビリテーションに関わるもので、未公開のものに限る。
3. 当誌に掲載が決定した論文等の著作権は、当学会に帰属するものとする。
4. 投稿論文の採否は、複数の査読者の意見をもとに編集委員会で決定する。編集委員会の意見をつけて修正を求めることがある。
5. 投稿は、随時受け付け、採択した論文は J-Stage, Medical Online, 医学中央雑誌に掲載する。掲載原稿の著者校正は 1 回のみとする。
6. 投稿論文の区分は、原著、総説、展望、短報、事例報告、資料、会員の声とする。
規定枚数 1 枚は 800 字に換算する。図表 1 個は、400 字相当として全枚数より減じる。
7. 投稿原稿は、ヘルシンキ宣言の精神に基づき、
研究倫理についての検討が行われており、原著、
短報、事例報告、資料等では、その旨の記載

区分	枚数	組み上がり枚数	内容
原著	15	8	理論的、実験または調査などに関する研究論文で、独創性、新規性を認めるものであり、提示されたデータについて、リハビリテーションや連携領域における意義が明示されている論文
総説	20	10	先行研究を総括し、問題の解明に向けた研究の進展状況を検討した論文
展望	15	8	リハビリテーション連携に関する諸課題について、研究・活動・政策・動向等を概観し、総合的に展望した論文
短報	7	4	リハビリテーション連携に寄与しうる新知見が示され、速報性を重視した論文
事例報告	10	5	リハビリテーション臨床・実践における事例の検討を通して、実際の問題を検討した論文
資料	10	5	調査、統計に関するもの、歴史的に価値ある文献資料の紹介、方法論的試験、新しい実験装置の紹介、内外諸研究の追試験討等の論文
会員の声	2	1	海外事情、関連学術集会の報告等

があるものとする。

8. 研究に利益相反の可能性がある場合（企業等からの研究助成金や寄付金の受け入れ、実験機器等の提供、コンサルタント料や謝金、特許取得など）は、本文の最後に利益相反に

ついて記載するものとする。

9. 原稿は、表紙・抄録・本文・文献・図表・図表の説明文で構成し、投稿には原稿、投稿承諾書、投稿添付票（当学会ホームページ www.reha-renkei.org よりダウンロードのこと）の 3 点をそれぞれ別のファイルで送付する。
10. 和文抄録は、400 字以内とする。原著の抄録の場合は、目的、方法、結果、結論に分けて記載する。検索用のキーワードを 3～5 語添付する。英文抄録を希望する場合は 200 語以内とし、あらかじめネイティブチェックを済ませる。Key Words を 3～5 語添付する。
11. 原稿は、投稿原稿書式（当学会ホームページよりダウンロードのこと）に則って作成する。常用漢字、現代仮名遣い、算用数字を用いて表記する。
12. 投稿原稿添付票には、以下の項目を記載する。
 - ① 投稿区分（上記 6 の区分）・研究方法・研究テーマ・研究領域
 - ② 著者名（ローマ字併記）、
 - ③ 所属（著者全員）、
 - ④ 第 1 著者（代表者）の連絡先（住所、電話番号、FAX 番号、電子メールアドレス）。
 - ⑤ 表題（和文および英文）、
 - ⑥ 略題（和文表題を 20 字以内に略したもの）、
13. 原稿の見出し（章・節・項）は、ポイント・システムを用いる。
例）章：1. 節：1. 1 項：1. 1. 1
それ以降は(1)等を用いる。

14. 図表は、投稿原稿の本文中に挿入を希望する箇所を指示する。投稿の際には、本文とは別の白紙に、鮮明に書かれた図表を 1 頁につき 1 個記載し、必要に応じて図表の説明文も添える。

図表の刷上りスペース（図表の表題と説明文を含む）は、原則として片段（横幅 80mm）、または段抜き（横幅 160mm）になるように作成する。内容により適当な大きさを定めるが、できるだけ片段におさまるのが望ましい。図表中の文字のフォントは、刷上りサイズに適切なものとする。印刷上、雑誌の体裁に著しく外れるなど不適当と考えられた場合に、フォントや形式について修正を要請することがある。これらの修正を印刷会社に依頼する場合や、刷上り 1 頁大と不適当なサイ

ズの図表掲載の実費は、著者負担とする。

15. 文献は、本文中に引用し、本文末尾に引用順に番号を付して記す。本文中には、右肩番号で対応させて表示する。以下に文献の記載例を示す。記載法は科学技術情報流通技術基準（SIST：http://sist-jst.jp/perusal/index.html）による。

なお、巻・号の記載は完全記述方式「vol. 10, no. 6」ないし簡略記述方式「10 (6)」のいずれでも構わないが、表記は統一することとし、号数の記載は省略しないものとする。

15.1 雑誌の場合

【和文例】河野禎之, 朝田隆, 木之下徹, ほか. アルツハイマー病患者における日本語版 EuroQol (EQ-5D, VAS) による QOL 評価の信頼性と妥当性の検討. 老年精神医学雑誌. 2009, vol. 20, no. 10, p. 1149–1159.

【英文例】Rohde, A.; Worrall, L.; Le Dorze, G. Systematic review of the quality of clinical guidelines for aphasia in stroke management. Journal of Evaluation in Clinical Practice. 2013, 19 (6), p. 994–1003.

15.2 単行本（図書）の場合

【和文例・図書の一部】小澤温. “ノーマライゼーション”. 障害者福祉の世界. 第4版補訂版. 佐藤久夫, 小澤温共著. 東京, 有斐閣, 2013, p. 55–62.

【和文例・図書1冊】佐藤久夫, 小澤温. 障害者福祉の世界. 第4版補訂版, 東京, 有斐閣, 2013, 284p.

【英文例・図書1冊】Frank, R. J.; Rosenthal, M.; Caplan, B. Handbook of Rehabilitation Psychology. 2nd ed. American Psychological Association, 2010, 504p.

15.3 翻訳の場合

Damasio, H.; Damasio, R. D. Lesion Analysis in Neuropsychology. New York, Oxford University Press, 1989, 240p. (河内十郎訳. 神経心理学と病巣解析. 東京, 医学書院. 1991.)

15.4 電子ジャーナル中の論文の場合

松原茂樹, 加藤芳秀, 江川誠二. 英文作成ツールとしての用例文検索システム ESCORT. 情報管理. 2008, vol.51, no.4, p.251–259. <http://joi.jlc.jst.co.jp/JST.JSTAGE/johokanri51.251>, (参照 2008-08-15).

15.5 ウェブページの場合

厚生労働省老健局総務課. “公的介護保険制度の現状と今後の役割”. 厚生労働省. <http://www.mhlw.go.jp/topics/kaigo/gaiyo/hoken.html>, (参照 2012-07-20).

16. 掲載は無料とする。掲載原稿が規定枚数を超えた場合、掲載にかかる追加費用は著者の

実費負担とする。英文タイトル、英文抄録の校閲料は有料とする。

17. 投稿原稿の送付は、電子メールの添付ファイル（PDF、但し投稿添付票は Word ファイルのまま）にて、下記メールアドレス宛てとする。

〒112-0012 東京都文京区大塚 3-29-1

筑波大学大学院 人間総合科学学術院リハビリテーション科学学位プログラム事務室気付リハビリテーション連携科学編集委員会

E-mail : reha.renkei.toukou@gmail.com

Fax : 03-3942-6895